

学びのR

No. 8 (平成30年5月)
 埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

* ワークショップ型研修で授業改善 ④ *

ワークショップ型研修 その4 「KJ法」

*KJ法の「KJ」とは、文化人類学者の川喜田二郎氏の頭文字です。もともと野外科学の一手法として考案されましたが、研修等でもよく活用されている手法です。

<授業分析の一般的な手順および留意点>

1 事前

- 5~10人くらいのグループに分かれて行います。
- グループごとに模造紙、付箋、細字フェルトペンを用意します。
- 付箋の使い方(付箋の色と記述内容の関連、縦書きか横書きかなど)の約束事を確認しておきます。

付箋の色と記述内容の関連【例】
 青:よかった点、ピンク:課題、黄:改善策

2 グループ活動

ステップ1	① 授業観察による気付きや発見を付箋に書き出す。 ⇒ 1枚の付箋に1つの考えを(1文で)を書く。	全員の付箋に書き込んだ気付きや発見が協議の出発点となります。
ステップ2	② 記述した内容について説明しながら付箋を模造紙に貼る。 ⇒ 他の参加者で同じ内容の付箋があれば、同様に説明しながら貼る。 ③ 似た内容の付箋をグルーピングし、小見出し(簡易な文言)を付ける。 ⇒ グルーピングが難しいものは無理にしなくてよい。	互いの気付きや発見を確認します。
ステップ3	④ 分類した考えをもとに話し合う。 ⇒ 全体を見直し、分類された傾向、つながるもの、工夫するとよい点などについて話し合う。 ⇒ グループ間の関係を分析し、その関係を矢印等で示す。 例) AとBはほぼ同様(A=B)、AがBの原因(A⇒B)、AとBは相互に関連(A⇔B)等 ⑤ 意見を集約し、解決策(アイデア)を絞り込む。	グルーピングやその後の話し合いを通して、多様な見方、考え方に会います。

3 全体協議

ステップ4	⑥ グループで協議した内容を全体に発表する。 ⑦ 課題の解決策について協議し、今後の方向性を整理する。 ⑧ 協議結果を踏まえ、研究内容を整理し、教師一人一人が研究仮説に基づく授業実践に継続的に取り組む。
-------	---

4 留意点

○KJ法を活用した授業研究においては、自校の研究主題や仮説に応じてねらいを明確にすることが大切です。また、参加者から出た意見を漠然と集約するのではなく、次のA~Dのような工夫をすることが重要になります。

A 事前に授業者の意図を理解しておきましょう。

B 事前に授業分析の視点や役割を決めておきましょう。

C 授業の感想や「良い」「悪い」の判断ではなく、児童生徒の活動や動き、発表など客観的な事実を積み上げていきましょう。

D グループ分けや見出しづくりを行う場合には、研修部員や研究グループリーダーなどをコーディネーター役として事前に決めておきましょう。

* 「KJ法」に慣れないときは「短冊法」というKJ法を簡略化した手法もあります。(*ミニ講座1*参照)

ミニ講座1 「短冊法」

KJ法を簡略化したのが短冊法である。付箋の簡単なグループ分けが終わった時点で、構造化まで行わずに、代表的な記述やポイントを短冊に記述する。複数グループで同じ授業を観察・分析する場合には、各グループの結果を学校全体で集約するのに有効である。各グループからあがってきた短冊を使って簡便なKJ法を再度行い、学校全体で成果をまとめる。複数グループから出された短冊を整理しなおせば、学校全体で授業の成果や課題、改善策を集約することができる。



「短冊法の例」⇒



Q1

どのようなとき有効なの？

A1 アイディアを出し合い解決策に結び付けたいときに有効です。児童生徒の実態把握による授業構想、授業を進めていく上での工夫改善点、児童生徒の授業中の変容等、事前の授業検討会や授業後の研究協議等、さまざまな場面で活用できます。自由な雰囲気のもと、ベテランの先生のみならず、若い先生方も積極的に意見を出せることから研修の一体感が生まれます。



Q2

どのような手法なの？

A2 協議で出されたアイディアや意見をカードに書き、グループ化して問題を整理・解決する手法です。多くの場合、「ブレイン・ストーミング」(*ミニ講座2*参照)と組み合わせて、参加者全員が積極的にアイディアを出し合い、出た意見を「KJ法」でまとめながら、解決策を導き出していくために活用されることが多いです。



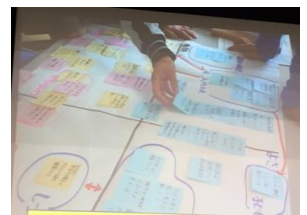
Q3

具体例を教えてください？

A3 フリーの気付きを大切にし、対象を明確にしていく授業研究の具体例を示します。

手順①~④

- ① 教師の支援と児童生徒の活動を色分けし、授業記録やメモを参考に付箋に各自記入していく。
- ② それぞれの付箋を授業構想に基づいて貼り付けていく。
- ③ **教師の支援に関するもの** (発問、指名、板書、机間指導、教具等)、
児童生徒に関するもの (挙手、発言、表情、グループでの活用の様子、思考の流れ等)、
学習環境に関するもの (机の配置、掲示物、視聴覚教材等)
などの対象別にそってグループ化していく。
- ④ グループ化できそうなものに見出しをつけ、協議の視点を明確にする。その際、1枚の付箋でも1つのグループとして考えていくことも大切にする。



<グループ化の様子>



このように、研究授業のねらいに応じて、お互いの気付きを再構成することにより、様々な視点での検討やより内容のある研究協議が可能となります。

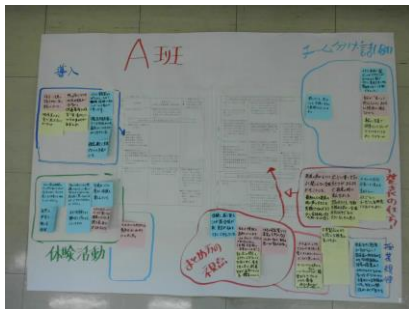


Q4

他にはどのような活用例があるの？

A4 KJ法は、他のワークショップ型研修にも幅広く活用されています。例えばア～ウは、いずれもKJ法を活用しています。

ア「指導案拡大シート」



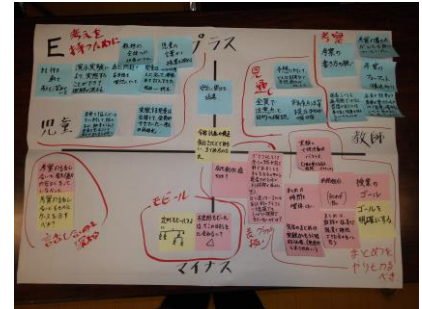
関連を見つけ構造化します

イ「マトリクス法」



セルを超えた視点で関連を見つけ構造化します

ウ「概念化シート」



気付きを構造化します

ミニ講座2 「ブレインストーミング」

自由な発想で討議し、創造的に問題解決を目指す代表的手法。特定の目標の実現のためにアイディアを出し合ったり、様々な考え方ができる事柄についてグループとしての行動方針を設定したりする。その際「他者の意見を正誤の判断をせずに受け入れる」「自由奔放な型破りなアイディアを奨励する」「どんな意見でも多数出す」「他人のアイディアを活用したり組み合わせたりする」ことを原則として進める。多様な考えが生産されるため、その後KJ法等により整理が必要になる。

参考 「平成28年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 研修のしおり」(独立行政法人 教員研修センター 文部科学省)
「指導資料」(北海道立教育研究所)
「校内研修ハンドブック」(徳島県立総合教育センター)